

2 日本における南アジア系移民の現在地 —— 移民政策とのかかわりから

1 日本における南アジア系移民の特徴

経済のグローバル化の進展に従い、国境を越えた人の流動化が高まっています。開発途上国から先進国への移民は出身地と移住先の社会経済的变化を直接もたらしています。南アジアから先進国・日本への国際人口移動も近年増加し、日本におけるIT産業、中古車販売業、エスニック料理店（カレー屋）、留学生、コンビニエンスストアなどと深くかかわりを持っているのが大きな特徴です。南アジア諸国の宗教・文化・言語、社会・経済は極めて多様であり、一括して把握することは不可能です。そこで、本稿では、「在留外国人統計」を用いて国籍別の在留外国人の特徴を明らかにしたいと思います。またパキスタンとバングラデシュの両国に関しては、日本の移民政策との関連が非常に大きいので、それについても考察します。

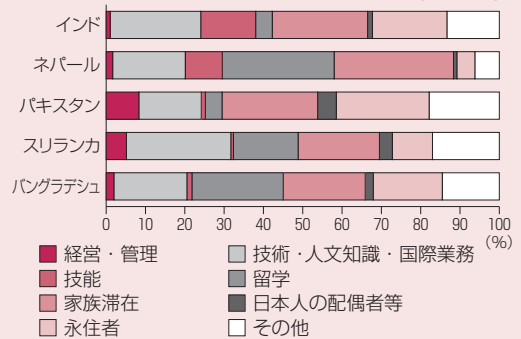
2 在日インド人の特徴

インドは、中国と並び歴史的にも代表的な移民輩出国です。在留インド人（約43,000人）は、東京都（39%）、神奈川県（16%）、千葉県（5%）、埼玉県（4%）、茨城県（4%）、兵庫県（4%）に多く居住します。集住地は、ニューカマーとしての高学歴IT技術者とその家族から構成され、東京都江戸川区西葛西およびその周辺の「リトルインド」¹とも呼ばれる日本最大のインド人集住地と、オールドカマーとしてのインド商人とその家族から構成された神戸市中央区北野とその周辺で形成された集住地の、対照的な2つが形成されています（澤2010, 2018, 2020, 南埜・澤2005）。

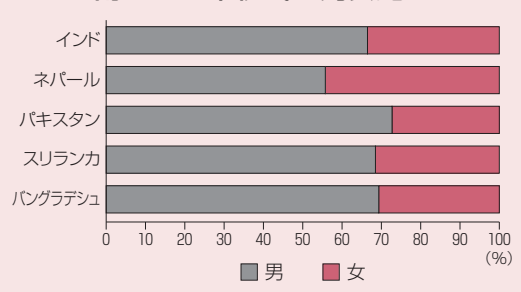
在留資格別にみると、「技能・人文知識・国際業務（以下、技人国）」は10,000人強（23%）です（図1）。彼らの多くは、インドの大学・大学

院卒の高学歴のIT技術者です。また、「技能」は6,000人強（14%）であり、そのほとんどがインド料理店の料理人です。在留インド人の男性比率は66%であり（図2）、IT技術者の男子単身赴任がかつては中心でしたが、次第に妻を呼び寄せた結果、家族滞在者（妻子）の増加により女性比率が高まってきています。このように在留インド人は、IT技術者（男子）とインド料理店関係者（男子）とその家族（妻子）を中心に構成されていることがわかります。日本への入国はIT技術者としての就業と料理店勤務、結婚（妻の呼び寄せ）の3つのルートです。

〈図1〉 南アジア系在留外国人在留資格（2022）



〈図2〉 南アジア系移民の男女比（2022）



※両図とも在留外国人統計（2022）により筆者作成
出典：澤（2024）

3 在日ネパール人の特徴

山岳地が多く農業も工業も不十分なネパールは世界でも有数の移民輩出国です。在留ネパール人（約14万人）は東京都（20%）、愛知県（9%）、福岡県（8%）に多く居住し、そのなかでも、日本語学校が多く立地し留学生が多く居住する東京都新宿区（特に新大久保）・豊島区、名古屋市、福岡市、那覇市などと、ネパールのインターナショナルスクールがある東京都杉並区が代表的な居住地です。

ネパール人において、留学生が約4万人（28%）と多数を占め、留学生の男性の割合は56%と男女数が均衡しているのが特徴です。留学生の多くは、日本語学校と専門学校の学生です。会社員が多数を占める「技人国」が18%、インド・ネパール料理店の料理人である「技能」が9%となっています（図1）。また、留学生はコンビニエンスストアや飲食店などに、「家族滞在」であるインド・ネパール料理店の経営者や料理人の妻は食品工場やホテルのベッドメイキングなどに、それぞれ「資格外活動」として認められた上限の週28時間労働しているのが通例です（澤・南塾 2022, 澤 2023）。男女が均衡したネパール人留学生の影響で、ネパール人の男性比率も56%と他の南アジア系と比べ男女が均衡した構成となっているのが大きな特徴となっています（図2）。

現在のネパール人の働く形態と在留資格は主に以下の5つから構成されています。①インド・ネパール料理店や食材店の経営者（「経営・管理」, 「技能」, 「永住者」）、②インド・ネパール料理店で雇用されている料理人（「技能」）、③前述の①や②の家族で日本語能力をあまり必要としない食品工場やホテルのベッドメイキング・清掃などにアルバイトとして週28時間を上限に働く者（「家族滞在」）、④時給の良い夜勤を中心に食品工場、コンビニエンスストア、居酒屋、物流、ホテルのベッドメイキング・清掃などにアルバイトとして週28時間を上限に働く留学生（「留学」）、⑤日本で企業に就職した元留学生（「技人国」）です（南

塾・澤 2017, 澤・南塾 2022, 澤 2023）。

このように在日ネパール人は、会社員（男子）、インド・ネパール料理店関係者（男子）および両者の妻子と、留学生（男女）を中心に構成されていることがわかります。日本への入国は留学、料理店勤務、結婚（妻の呼び寄せ）の3つのルートになります。

4 在日パキスタン人の特徴

パキスタンもアジアの中で代表的な移民輩出国の1つです。1980年代後半、当時の日本は好景気で工場や建設現場での非熟練労働者の需要が増大し労働力不足となっています。さらに円高傾向が続き、開発途上国との賃金格差が拡大していました。パキスタン、バングラデシュと日本は、当時それぞれ「査証相互免除取り決め」があり、両国からの日本への入国が容易であったため、日本への出稼ぎブームが起こり、両国からの入国者が増加しました。しかしその後、日本政府は当時社会問題と化した資格外就業者や超過滞在者の増加を制限するために1989年に両国に対する「査証相互免除取り決め」を停止し、両国からの入国者数は激減しました。それ以降、日本における非熟練移民労働者は、ブラジルやペルーの「日系人」が代替することとなりました（澤 2007）。

パキスタン人（約22,000人）の特徴の1つ目は、「経営・管理」の構成比（8%）が他の南アジア系在留外国人より高く、彼らの多くが中古車貿易業の経営主である点です（図1）。パキスタン人が多く居住するのは、埼玉県（15%）、茨城県（10%）、愛知県（10%）、千葉県（8%）、神奈川県（7%）、栃木県（7%）です。北関東に比較的多く居住し、「ヤシオスタン」とも呼ばれる埼玉県八潮市と「イミズスタン」とも呼ばれる富山県射水市はパキスタン人が集住する地域として知られています。八潮市は中古車のオークション会場に近く、日本海に面した射水市は対岸のロシアへ中古車を輸出する伏木富山港を有します。パキスタン人の中古車貿易業者への聞き取りによると、

中古車のオークション会場は、全国に多数立地し、そこでは日本の中古車貿易業では多数を占めるパキスタン人が必ずビジネスを行っているといわれています。彼らはオークション会場の周辺に居住しそこにモスクを設立するとともに、パキスタンハラル料理店・食材店を起業させています。そのため、パキスタン人の居住地は、オークション会場のある全国に散在し、八潮市と射水市などを除けば特定の市町村に集住するような傾向は認められません。

2つ目の特徴は、「日本人の配偶者」比率（5%）が他の南アジア系在留者よりも高く、かつ「日本人の配偶者」の男性比率が92%と極めて高い点です。日本人女性と結婚したパキスタン人男性は日本人妻名義でビジネスを起業することが多く、定住化が進んでいます。このため「永住者」の比率も24%と、他の南アジア系在留者よりも高くなっています。このようなことから、在留パキスタン人の男性比率は73%と極めて高く（図2）、男性中心の構成となっています。日本への入国は中古車貿易業のルートと結婚（妻の呼び寄せ）が大きくなっています。日本語学校や専門学校に在籍するパキスタン人学生はごく少数で、留学による入国は極めて限定的です。

5 在日スリランカ人の特徴

スリランカ人（約37,000人）は「経営・管理」（5%）、「留学」（16%）、「技人国」（26%）の構成比が他の南アジア系外国人の平均と比較して多い傾向にあります（図1）。スリランカ人の「経営・管理」の多くは、パキスタン人と同様に中古車貿易業の経営主です。「技人国」の男性比率は87%であるが、近年増加したスリランカ人の「留学」の男性の割合は66%であり、留学生の女子比率が高まっています。この結果、在留スリランカ人の男性比率は68%となり、かつての男性中心の構成からの変化を読み解くことができます。日本のスリランカ人は、中古車貿易業の経営主、会社員とその家族（妻子）と急増する留学生（男女）

によって構成されています。日本への入国は中古車貿易業のルートと結婚（妻の呼び寄せ）と、近年急増している留学による入国です。

スリランカ人が多く居住するのは、千葉県（19%）、神奈川県（14%）、茨城県（9%）、愛知県（8%）、東京都（7%）、埼玉県（6%）であり、関東の郊外に散在していることがわかります。在留パキスタン人の場合と同様に、全国に散在する中古車のオークション会場近くに居住する傾向があり、特定の市町村に集住するような傾向はまだ顕著には認められません。

6 在日バングラデシュ人の特徴

バングラデシュ人（約23,000人）が多く居住するのは、東京都（23%）、埼玉県（13%）、神奈川県（7%）、群馬県（7%）、千葉県（6%）、兵庫県（6%）で、東京都北区東十条が「リトルダッカ」と呼ばれる集住地です。関東に多く居住するが、兵庫県に多いのは日本語学校と専門学校での留学生が特に急増しているためです。

バングラデシュ人の大きな特徴は、「留学」（23%）、「技人国」（19%）、「家族滞在」（21%）の構成比が高く、料理人である「技能」は1%に過ぎない点です（図1）。「留学」と「技人国」の男性比率はそれぞれ87%、93%と極めて高く、この結果、在留バングラデシュ人の男性比率は70%と非常に高くなっています（図2）。男性を中心とした構成であり、これも在日バングラデシュ人の大きな特徴です。男子留学生が卒業後日本の企業に就職し（「技人国」）、その後結婚して妻を呼び寄せ（「家族滞在」）という男性中心のライフパスを読み解くことができます。日本への入国は留学生、元留学生の会社員、結婚（妻の呼び寄せ）が多く、料理人の入国は少数です。

在留資格別バングラデシュ人数の1994年以降の推移は、まず「留学」が大きな割合を占めるとともに、留学生が2013年以降急増傾向にあります。2019-2021年にかけて留学生が激減したのは、新型コロナウイルスによる厳しい入国制限があったため

す。また「技人国」と「家族滞在」の増加傾向がきわめて近似し、連動していることがわかります。つまり、留学生として入国し（「留学」）、卒業後日本の企業に就職し（「技人国」）、その後結婚し妻を呼び寄せ、子どもを育てる（「家族滞在」）という、留学生として来日した男性のライフパスが従来から形成・継続していると考えられます。また日本での在住期間が長期化することにより「永住者」も増加しています。他方、上記の3つの在留資格に比べ少数ではあるが、「経営・管理」と「技能」の変化も連動していることがわかります。これらは中古車貿易業の経営主を除けば、バングラデシュ料理店の経営者と料理人の関係です。

このように、在日バングラデシュ人は男性を中心とした構成であり、男子留学生が卒業後日本の企業に就職し、その一部が中古車貿易業、バングラデシュ料理店・食材店を起業しています。彼らはその後結婚して妻を呼び寄せるという男性中心のライフパスが多く認められます。日本への入国は留学生、元留学生の会社員、結婚（妻の呼び寄せ）が多く、料理人の入国は極めて少数です。

7 おわりに

インド人 IT 技術者に関しては、日本の IT 産業において不可欠な存在です。また、留学生はネパール人、バングラデシュ人、スリランカ人が近年急増しており、その多くは日本語学校と専門学校の留学生です。日本語が上達するとコンビニエンスストアで特に時給の良い夜間にアルバイトしていることが多く、人手不足のコンビニエンスストア業界で不可欠な存在となっています。日本の中古車はメンテナンスが行き届いており、日本と同じ右ハンドルの自動車の諸国（イギリスの旧植民地に多い）では、非常に人気があります。この業界では、パキスタン人・バングラデシュ人・スリランカ人業者がきわめて大きな役割を果たしています。

このように南アジアから日本への人口移動は、

近年増加傾向にあるとともに、日本の経済活動との関連も次第に大きくなってきたといえます。

なお、本稿は澤（2024）の一部を加筆修正したものです。

【参考文献】

- 澤 宗則（2007）：外国人労働者．上野和彦・椿 真智子・中村康子編『地理学概論』朝倉書店，pp.118-122.
- 澤 宗則（2010）：グローバル経済下のインドにおける空間の再編成—脱領域化と再領域化に着目して．人文地理，62-2，pp.132-153.
- 澤 宗則（2018）：『インドのグローバル化と空間的再編成』古今書院．
- 澤 宗則（2020）：インド人 IT 技術者と商人—東京と神戸の対比．駒井 洋・小林真生編『移民・ディアスポラ研究 9 変容する移民コミュニティ—時間・空間・階層』明石書店，pp.146-155.
- 澤 宗則（2023）：インド・ネパール料理店の立地展開と戦略—神戸市の南アジア系エスニック・レストランの比較考察．移民研究，19，pp.1-36.
- 澤 宗則（2024）：在日バングラデシュ人の集住地「リトルダッカ」の形成—東京都北区東十条・十条を事例に．移民研究，20 pp.1-46.
- 澤 宗則・南楚 猛（2022）：ネパール人留学生に関するトランスナショナルな関係—ネパールの日本語学校の立地と戦略に注目して．移民研究，18，pp.1-36.
- 出入国在留管理庁（2023）：在留外国人統計．
https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_tourouku.html
- 南楚 猛・澤 宗則（2005）：在日インド人社会の変遷—一定住地神戸を事例として．兵庫地理，50，pp.4-15.
- 南楚 猛・澤 宗則（2017）：日本におけるネパール人移民の動向．移民研究，13，pp.23-48.

（澤 宗則）